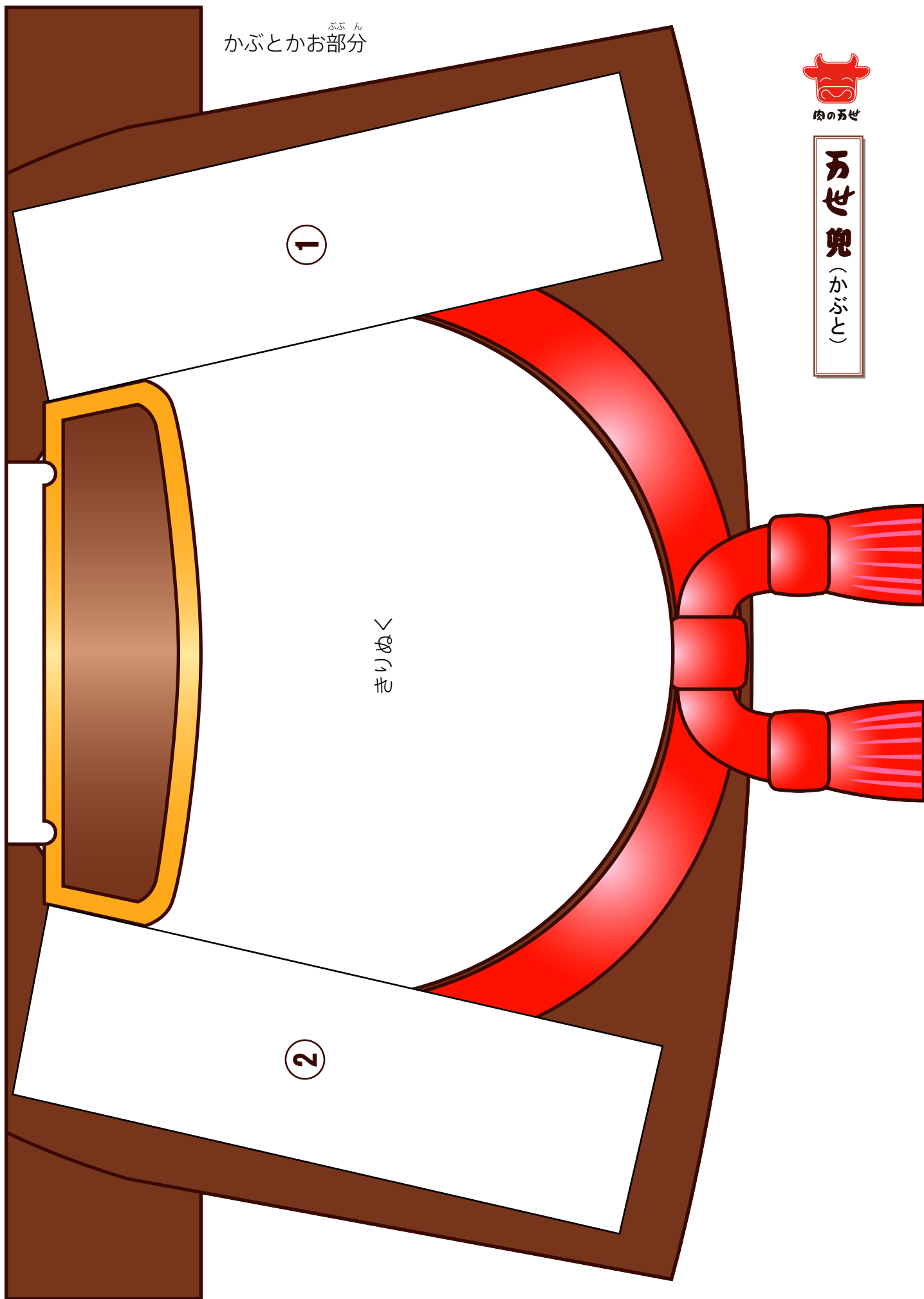




万世兜 (かぶと)

かぶとかお部分<sup>ぶぶん</sup>



1

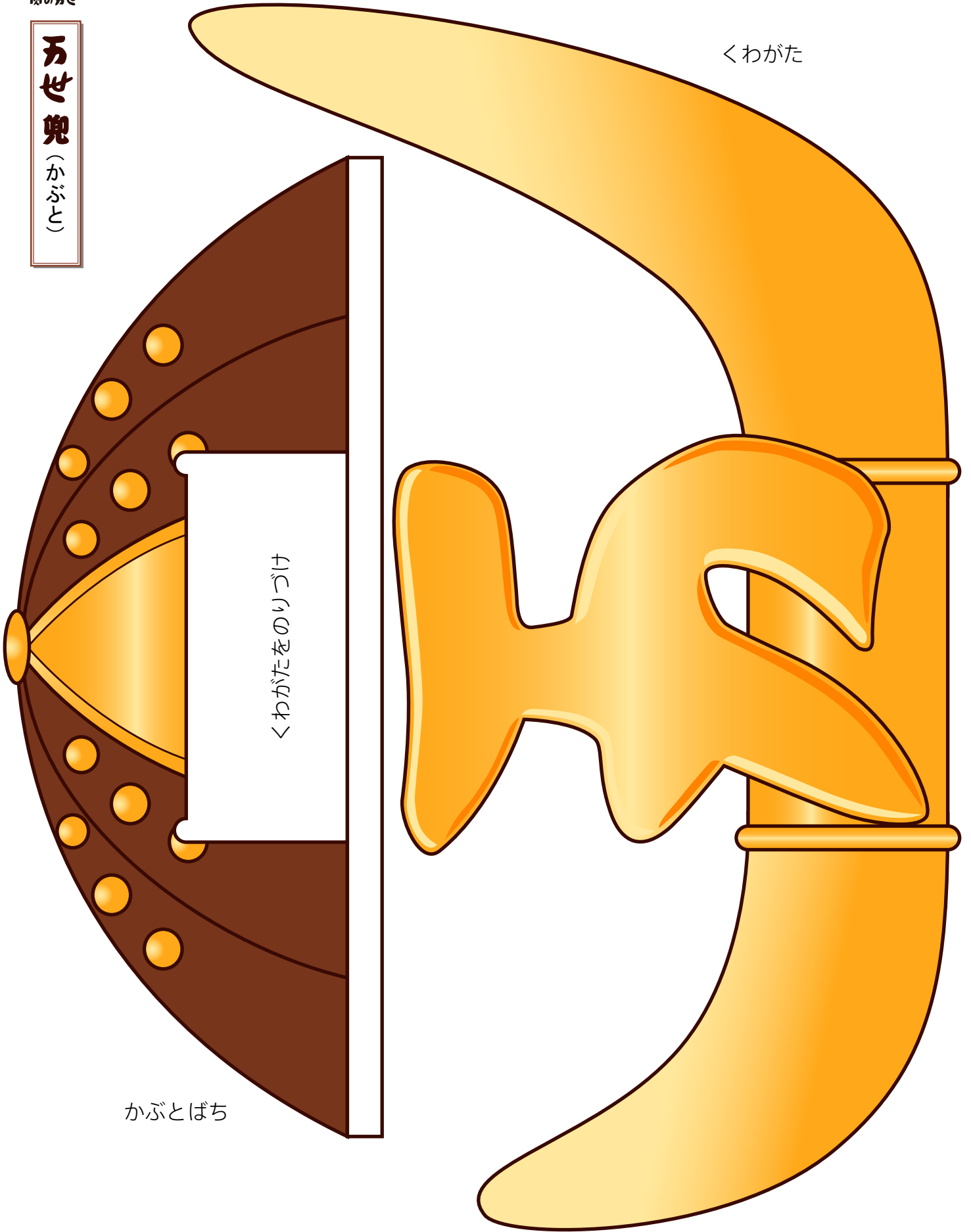
きりぬく

2



肉の五世

五世兜 (かぶと)



くわがた

かぶとばち

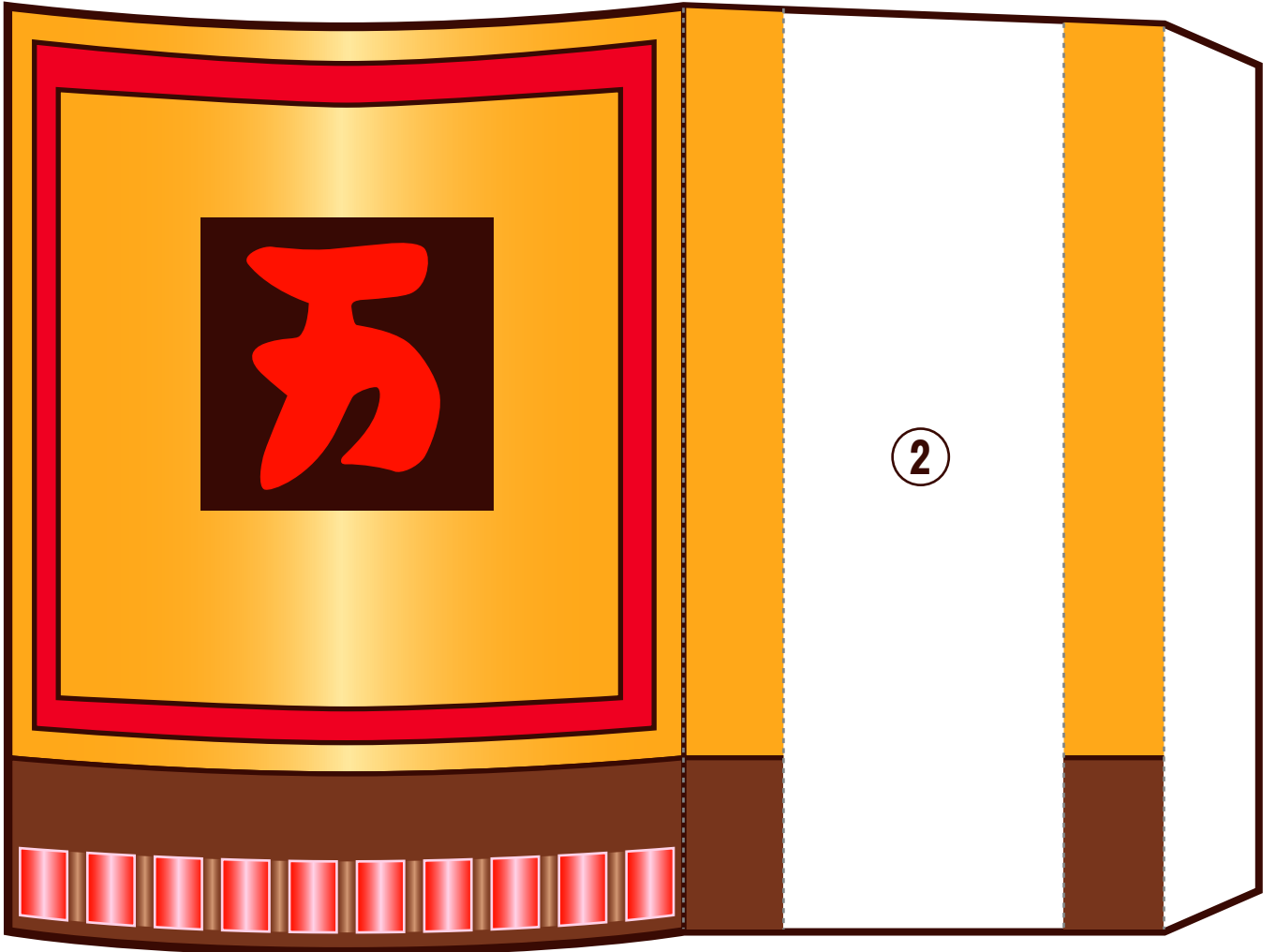
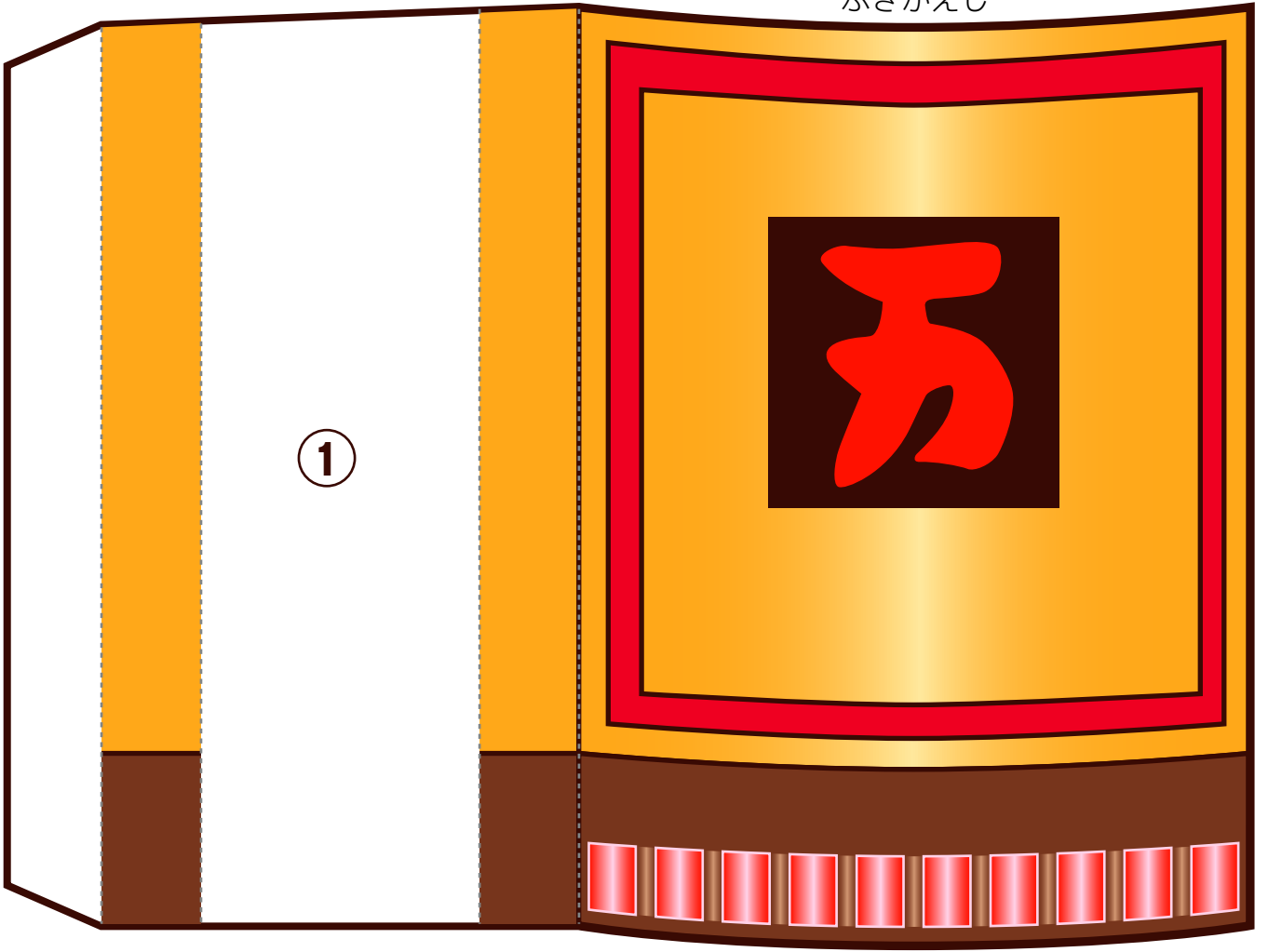


肉の万世

万世兜 (かぶと)

山折り

ふきかえし





# 五せ兜 (かぶと)

やまお  
山折り

ベルト



たんご せつく まめ ち しき  
**端午の節句豆知識**

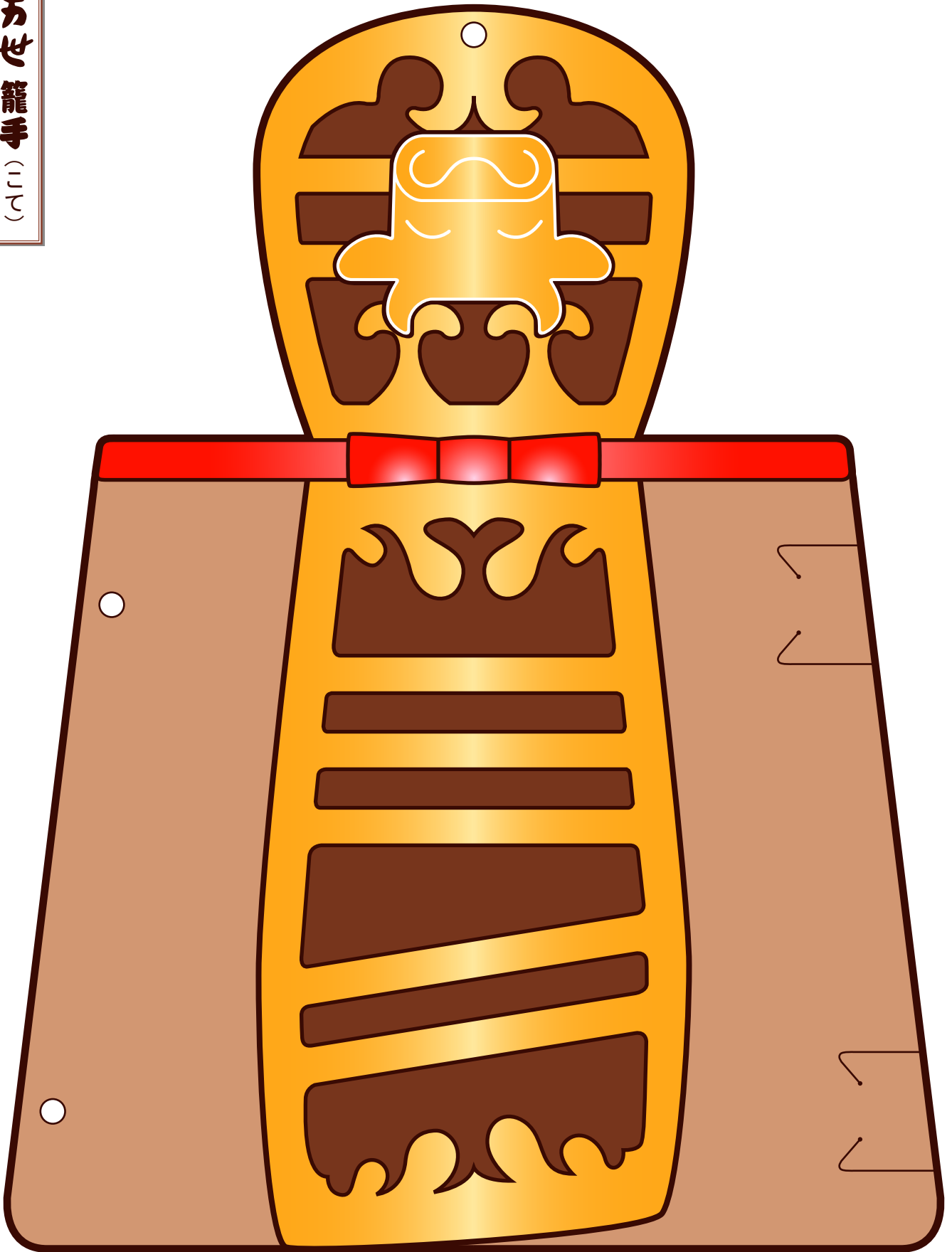
- ◆ **端午の節句** . . . (たんごのせつく) 端午とは月の端 (はじめ) の午 (うま) の日という意味です。もともと5月に限ったことではなかったのですが、「午 (ご)」と「五 (ご)」が同じことから、やがて五が重なる5月5日が厄払いの日として定着していきました。  
奈良・平安時代の貴族の間では、季節の節目に菖蒲 (しょうぶ) などの薬草を厄よけとしてかざったりしました。後に武士の時代となり、「菖蒲」を「尚武 (しょうぶ=武をたつとぶ)」や「勝負」とかけて、男の子の誕生を祝う習慣へと変わっていきました。
- ◆ **鎧や兜** . . . (よろいやかぶと) 鎧や兜を飾るのは、男の子の身を守るという意味合いからです。病気や事故などの災厄から子どもを守ってほしいとの願いが込められています。
- ◆ **こいのぼり** . . . こいのぼりは、中国で昔から言い伝えられている、鯉が竜門という滝を登って竜になって天に上るという話に由来しています。子どもの立身出生を祈り、また「この子をお守りください」と天の神様への目印のため立てられるといいます。



肉の万世

万世籠手 (ひた)

こて ひだり  
籠手 左





肉の万世

万世籠手 (こて)

こて 右  
籠手 右

